

岐阜同朋 ふでうらぼう

- 美濃真宗のはじまり—美濃真宗の歴史(1) 安藤 弥
- 子どものつどい in 東本願寺
- 同朋の会ノススメ
光受寺・廣専寺「おてらサロン」
- My Book

2023.10 **129**



美濃真宗のはじまり―

安藤 弥

あんど
わたる

美濃真宗の歴史(1)

いま私たちがいただいている浄土真宗のお念仏の教えは、どのような歴史が積み重なって現在のようになっていっているのでしょうか。今回の連載では、主に美濃における真宗の歴史をたどり、その歴史に学びながら、教えを受け継ぎ、次の世代へと伝承していくことの大切さを考えたいと思います。

美濃地域における浄土真宗のはじまりについて詳しいこと(史実)はほとんどわかりませんが、宗祖親鸞聖人が関東から京都に帰る途中で立ち寄られたという伝承があります。

嘉禎元(一二三五)年、聖人六十三歳の時、まず三河矢作宿(愛知県岡崎市)の柳堂において説法されていたところに、有縁の人たちが聖人をお願いして尾張・美濃にも来てもらったといわれます。その際に聖人が逗留されたという「木瀬の草庵」の伝承地が、羽島郡岐南町三宅九一七三にあります【写真1】。この話は、特に木曾川の尾張・美濃両域に活動

した河野門徒の伝承として知られています。

また、開基が矢作まで行き、聖人の説法を聞き、帰依したという伝承を持つ寺院もあります(『大谷遺跡録』巻四「渋谷西方寺記」など)。

ただし、三河も含め、こうした親鸞聖人の逗留は江戸時代以降の文献にしか出てこないため、聖人の生きた時代の史実としては不明と言わざるを得ず、語り継がれた伝承として大切な内容である……というのが慎重な考え方です。

ところで、親鸞聖人は主に関東において、ともにお念仏の教

親鸞聖人御旧跡
河野六坊



【写真1】「木瀬の草庵」伝承地(岐南町三宅)

えを聞く仲間、すなわち同朋と出あいました。聖人は「親鸞は弟子一人も持たず候」(『歎異抄』第六条)と言われましたが、それはあくまで聖人の宗教的自覚であり、同朋たちのほうは聖人を師と仰ぎ、各地に門弟集団(初期真宗門流)がさまざまに生まれました。

初期真宗の時代(十三世紀後半～十五世紀前半)には、そうした門弟集団の一部が関東から各地へと移動して活動し、教えがひろまっていきましたが、美濃地域に

も門弟集団の流入があったと考えられています。その痕跡を知るには各寺院等に伝存する初期真宗の法宝物の存在を確かめる必要があります。たとえば、岐阜別院に所蔵される光明十字名号(帰命盡十方无导光如来)【写真2】も貴重なものです。その他に光明九字名号や高僧連坐影像、聖徳太子像などがあります。初期真宗門徒の人たちはこのような法宝物を本尊として礼拝し、生活を営んでいたと考えられています。



【写真2】「光明十字名号」(岐阜別院蔵)



安藤 弥(あんどう わたる)先生
【プロフィール】

1975年生まれ。名古屋大学文学部卒業。大谷大学大学院博士後期課程仏教文化専攻満期退学。真宗大谷派浄専寺住職。同朋大学教授・佛教文化研究所所長兼「いのちの教育」センター長。博士(文学)。真宗大谷派擬講。

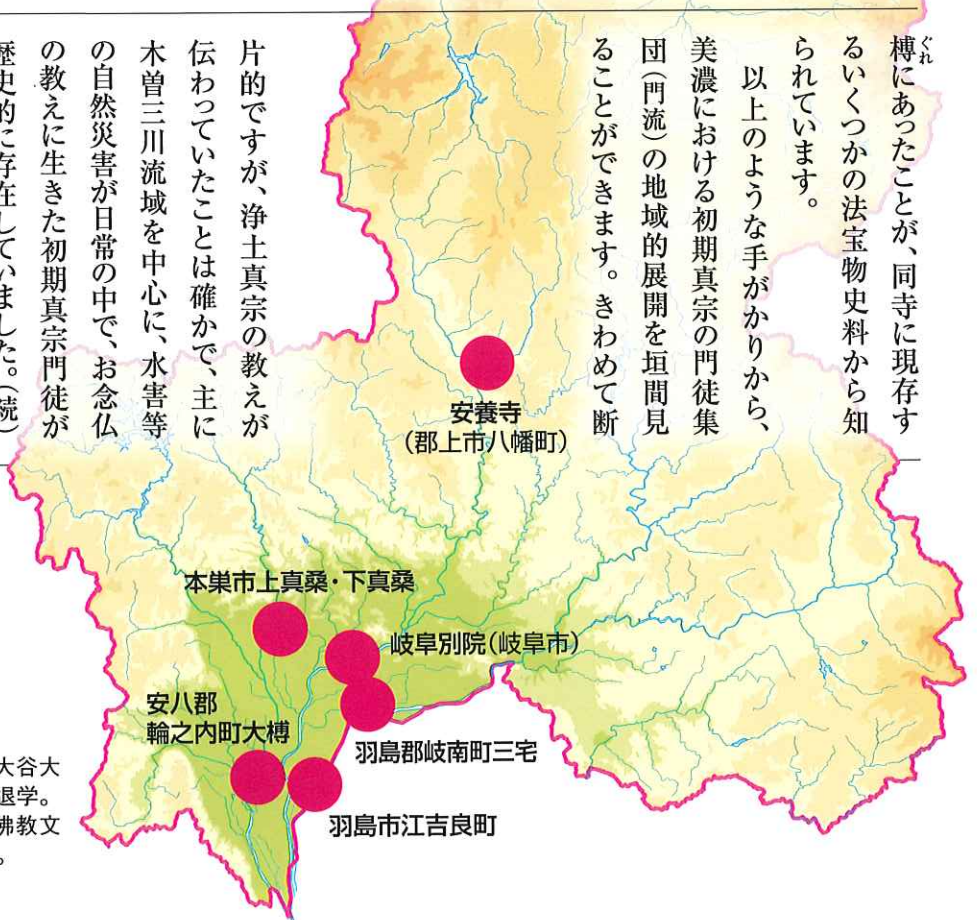
初期真宗門徒が、具体的に美濃のどこに拠点を置いて活動していたのかを全面的に捉えることは難しいのですが、親鸞聖人の玄孫に当たる存覚上人が記された『存覚上人袖日記』には一か所、美濃の地名が明記されており、貴重な情報です。それは文和三(一三五四)年八月二十六日に筆録された「マクワ」で、現在の本巢市上真桑・下真桑だと考えられています。この真桑の地に、明円なる門徒の本尊「不可思議光」(九字名号)がありました。また、当時は尾張になります。また、康安元(二三六二)年七月二十八日筆録で「江喜良島」の地名が見られ、これが現在の羽島市江吉良町と考えられています。こ

こには良信という門徒を中心とする集団が「マムキ」(真向きの阿弥陀如来絵像)、「不可思議光」(九字名号)、「和尚以下先徳」(高僧連坐影像)を掲げる真宗道場を構えていたとみられます。なお、かつては「開田」も美濃の地名ではないかという説がありましたが、近年の研究ではこの「開田」は関東の地名と考えられています。真桑や江喜良島の真宗道場はその後、水害の多いところであったためか退転し、法宝物も含めて現存不明とされていますが、地元に残された伝承などはないのでしょうか。

また、現在は奥美濃にありますが、安養寺(郡上市八幡町)は戦国時代以前、美濃国安八郡大

樽にあつたことが、同寺に現存するいくつかの法宝物史料から知られています。

以上のような手がかりから、美濃における初期真宗の門徒集団(門流)の地域的展開を垣間見ることが出来ます。きわめて断片的ですが、浄土真宗の教えが伝わっていたことは確かで、主に木曾三川流域を中心に、水害等の自然災害が日常の中で、お念仏の教えに生きた初期真宗門徒が歴史的に存在していました。(続)





子ども達が純粋に一生懸命歌ったりお勤めをしたりする姿に、こちらも大変有り難くお勤めいただきました。 父親T



ゆるキャラがわかりやすく教えてくれたので、のの様の事がよくわかりました。 小4K

慶讃事業

であう つながる ともにある

in 東本願寺

タッフとともに開催されました。 2023.5.5



行く前は、お経を唱えるだけかなと思っていました。でも行ってみたら、やたいがたくさんあって、楽しかったです。 小5N



堂内には、宗務総長の呼びかけによって、子どもたちのお念仏の声が大きく大きく響きわたりました。



かんバッチづくり、魚つりなどいろいろあって、楽しかったので、また行きたいと思いました。 中1T



東本願寺に初めて入らせていただきました。建物の大きさに子どもたちも驚いていました。 母親M



御影堂でお話を聞く中で、命のつながりについて、今後私たちはどうしていくべきなのかを考えさせられました。 母親N

岐阜高山教区
岐阜地区からの
参加者の声



宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百

子どものつと

東本願寺御影堂並びに境内白洲で、全国から集まった



牛皮で作るキーホルダーのブースに参加しました。これからキーホルダーをみて、命の大切さを思い出したいです。 小6M



山門に登って見たけしがキレイでした。わなげや魚つりをしてたくさんのおかしがもらえてうれしかったです。一日たのしかったです。 小3Y



おてらがおおきくて、すごとおもいました。 小1S

どうぼう
「同朋の会」ノススメ

今回は、大垣市墨俣町にある光受寺・廣專寺の「おてらサロン」を訪ねました。

墨俣町は長良川西側一帯であり、墨俣一夜城近くは寺町と言われるように多くの寺院が密集しています。そのような中で、光受寺若院の柴間隆文さんと廣專寺若院の近藤龍護さんがいつしよに始められたのがこの「おてらサロン」です。



会はお盆や報恩講の月などを除いて年に8回、第3木曜日に、光受寺と廣專寺を交互に会場として開かれており平均20名ほどの方が参加されています。

午後の1時30分から始まり2時30分頃に終わります。この日は廣專寺が会場で15名の方が参加されていました。初めに皆で



嘆仏偈のお勤めをされた後、柴間さんが、会の流れの説明の中で「来月、なんでも質問コーナーをするので、聞きたいことがあれば考えてきてください」と話されたところ、「二輪のお念珠はどのようなに持つのですか?」など、さっそく質問が飛び出し、急遽その応答が始まりました。

次に、近藤さんがプロジェクターとスクリーンを用いて、「正信偈」のお話をされ、これを受けて、「帰命無量寿如来を現代語訳するとどうなりますか?」などの質問があり応答するといった流れでした。この日は仏事に関する質問も出されていました。





途中からは、お菓子と飲み物が出され終始和やかな雰囲気でした。時間が過ぎました。

会を続けるごとに、近隣の方々に口コミで広がり、光受寺・廣専寺ご門徒以外の方も参加されているようでした。初めて参加された方は「いろいろなことが聞ける場があつてありがたい。次もまた来たいです」と仰っていました。

柴間さん、近藤さんからは、「教えにふれるということは外さずに、参加者がこんなことやつて

みたいということも取り入れていきたい」「どこのお寺にも熱心にかかわつてくれる人がいる。そういう人たちが集まれば楽しいし、新しいことも始まるかもしれない。寺町という寺が密集している特性を活かしていきたい。

他のお寺さんも加わってくれば嬉しい」「いずれば子ども対象の集いなんかもできれば」などと話されました。

お寺を開法の間として開こうと思いついても一人ではなかなか難しいものです。しかし、このよ



うに複数のお寺で、また、門徒さんといっしょに取り組めば、足りないものを補うこともできるし、発想も広がり大きな力となる。「おてらサロン」に参加させてもらい、あらためて共同教化の大切さを知らされました。



MyBook

サード・キッチン

白尾悠 河出書房新社 ¥1550 (Kindle版有り)

主人公の女性は、念願のアメリカ留学を果たしたものの語学の壁にぶつかり友人もできないまま孤独な日々を過ごしていた。

ある日、偶然サード・キッチンという学生達が集まる食堂に参加することになり、そこでさまざまな背景を持つマイノリティ(アメリカ以外の出身者、LGBTQ、経済格差のある学生など)の学生達と出会い、孤独でどん底の時に現れた美味しくてあたたかい食事と人種も性別もバラバラの学生たちの話を聞くうちに、彼女が徐々に変化していくお話。

人を一般的な固定観念や思い込みで決めつけて見てしまうことをステレオタイプという。例えば男性は



人は裏表があるなど「あの人はきつと○○だ」というように私たちは無意識のうち人にステレオタイプで勝手に決めつけているのではないか?

何処の国の人でも大人しい人もいれば陽気な人もいる。真面目な人もいれば暴力的な人もいて、多種多様なのが当たり前。

なのに一人ひとり違う人間だということを見無視して自分たちの勝手なイメージで単純化してしまふ。どうすれば個性や多様性を認め合うことができるようになるのか。

人にやさしくありたいとは思いますが、こちらのペースが乱されたり相手のマナーが悪いとイライラしてしまふ。そんな

やさしさは本当のやさしさだといえるのか?

本書は母国や母語から離れた場所にいたからこそ気付けることがあるためには、それが望むものであろうとなかろうと世界のありようを直視し考え続ける事が必要であり、人にXをつけるのではなく○を探す。優しくさってなんだろう?とあらためて考えるきっかけとなる本。

お待たせしました!
ご好評をいただいた「中陰カード」が重版になりました!

中陰カード

初七日から七七日までの中陰法要の意義を丁寧にたずねるとともに、それぞれのご和讃もわかりやく解説。

1セット(初七日から七七日、初月忌の8枚入り) **100円**
(ご注文は5セット500円より承ります。)

中陰法要のご法話の手がかりに最適!

編集後記

『きふどうぼう』に関わって、気が付けば20数年もの年月が...以前一緒に編集委員をしていた方から、「まだやっているの?」と。そうだよな。ついこの場がとても居心地が良いため...

私にとって『きふどうぼう』は知らなかった体験・経験・そして学習等をさせて頂ける場です。

それは、自分一人では行くことが出来ない、親鸞聖人・教如上人が歩まれた土地に、委員達と一緒に出掛け、自分の目で、自分の目で見ることが出来る、取材することが出来ること。なんて凄いいことか!

また、毎回どんな内容にするかと話し合い、作法についてや莊嚴について等の企画をしたり、多くの先生方と対談をしたりと。そして、その原稿を読むことも楽しみでした。今思い返すと、一つ一つがとても良き学びでした。素敵な体験・経験、そして学習することが出来る『きふどうぼう』。

みなさん、一緒に学びませんか。新たな人、手をあげて下さい!! 大歓迎です!! (摩耶)